



# こうまだより

第655号  
令和8年1月30日

園長 高麗 正夫

## 鬼の人格

昔、昔、山奥に赤鬼と青鬼が住んでいた。赤鬼は、人間と友だちになりたいと思い、「お茶とお菓子があります。立ち寄って下さい」という立看板を作った。でも、誰も来ません。そこで青鬼に相談をした。青鬼が「オレが村へ行って大暴れするから、そうしたらオマエがオレをなくって、追い払うんだ」と言った。次の日、青鬼は村へ行って大暴れし、赤鬼が青鬼を軽くなぐった。それではだめだ。もっと思い切り強くなぐらないと村人に疑われる。赤鬼は青鬼の頭を強くなぐり、青鬼は山へ逃げ帰り、村人たちは、赤鬼に感謝した。余りにも強くなぐってしまったので、赤鬼は青鬼の家へ行った。家の入り口に、「赤鬼へ オレがここには疑われるので旅に出る。青鬼より」と書いてあった。それを読んで赤鬼は、涙を流して泣いた。

「泣いた赤鬼」の物語である。

2月3日節分、次の日が立春になる。

幼稚園では、節分の日に豆まき集会がある。10年以上前まで、赤鬼と青鬼が幼稚園の保育室の中に入って来て、「いじめっ子はいないか」「先生の言うことを聞かない子はいないか」と暴れる。赤鬼と青鬼のお面は、秋田の「なまはげ」のもので、子どもにとっては怖いお面である。担任の先生から、鬼が怖いため、幼稚園を休んでしまう子がいるので、保育室の中に入らないでほしいと言われた。最近では、鬼が保育室の外を通るだけになってしまった。

最近の鬼は、角を取られたやさしい鬼になってしまった。鬼は恐ろしく怖いというイメージをなくし、鬼の人格というか鬼格を失ったように感じる。

鬼とは、心の中に住む邪悪な悪い気持ちを擬人化したもので、目に見えないため、見える化したのが鬼である。

子どもたちは、これから成長するにつれ、友だちをいじめたり、物を盗んだり、大人になると、ギャンブルに手を染めたりする。人間は友だちを失い、自分を無くしてしまう。鬼に負けないために、強い心が必要である。強い心とは、良い事と悪い事の判断ができる事である。豆まき集会に強い心を持って参加すれば、鬼など怖くないでしょう。豆まき集会の日には、欠席させないでください。

職員室の隣のホールから、子ども会の練習している子どもたちの声が聞こえて来ます。

2月14日（土）には、お父さん、お母さんが観に来るということで、頑張って練習しています。

子ども会の晴れの舞台を楽しみにして下さい。

## 課外サッカー教室 入会説明会

令和8年度課外サッカー教室の説明会を行います。入会希望の方はご参加ください。

日時：3月2日（月）9：30～ 場所：にこにこクラブの部屋

※ 説明会に参加される方は、レーザーキッズの3/2から申し込みをしてください。

※ 3/6（金）に体験も出来ます。その際も、レーザーキッズから申し込みをしてください。